学校教育目標「豊かな心と創造性と確かな学力を土台とした、生きる力を備えた子どもの育成」

御薗小だより

御薗小ＨＰでは、児童の様子やお便りを紹介しています。２次元コードを読み取ってもらうとつながります。↑

令和８年１０月２２日号
伊勢市立御薗小学校
発行人　森本　一

全国学力・学習状況調査の結果分析と取り組み

本年４月に６年生を対象に実施された「令和８年度全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえ、御薗小では夏季研修会で児童の学力と学習状況を分析し、授業や生活習慣の改善に取り組んでいます。成果や課題を家庭・地域とも共有し、さらに取り組みを充実させていきます。

【教科に関する調査結果】
平均正答率

教科	国語	算数
本校	50	41
（全国比）	(-10.9)	(-15.4)
三重県	61	55
全国	60.9	56.4

≪各教科の成果（○）と課題（●）≫

国語「文章の特徴理解」に成果があった一方、「漢字の定着と活用」や「自分の経験と結びつけて記述する力」に課題がありました。



○話や文章の種類とその特徴について理解することができる。

◇問題番号３の一　本校の正答率 73.2%（全国の正答率 76.7%）

【問題の概要】【文章】の特徴として適切なものを選択する

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。

◇問題番号２の三イ　本校の正答率 26.8%（全国の正答率 45.2%）

【問題の概要】【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ）

●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

◇問題番号３の三（２）　本校の正答率 55.4%（全国の正答率 76.4%）

【問題の概要】【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く



≪御薗小の取り組み（国語）≫

「漢字の定着・活用」と「自分なりの考えをまとめる記述力」の向上に向けて、各学年の発達段階に合わせて全校で取り組んでいきます。漢字指導においては、単なる書き取りにとどまらず、朝の時間を活用した短文づくりなど「文の中で正しく使う練習」を重ね、各教科のノート学習でも習っ

た漢字を積極的に使う習慣を身につけさせます。また記述力の育成に向けては、読解した内容に自分の体験や考えを理由とともに書く活動を、国語だけでなく全教科で意識的に取り入れます。書き方のモデルや枠組みを示しながら丁寧に指導し、「伝わる文章」を書く力を育んでいきます。ご家庭での漢字練習や読書への励ましなど、温かいご協力をお願いいたします。



算数「小数」に成果があった一方、「図形の構成要素の理解」および「理由や求め方を数・言葉で説明する記述力」に課題がありました。

〇小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができる。

◇問題番号３の（１）　本校の正答率 87.5%（全国の正答率 94.5%）

【問題の概要】１、５、９の３枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く

●図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できる。

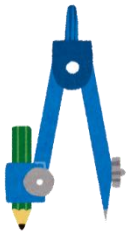
◇問題番号１の（４）　本校の正答率 19.6%（全国の正答率 45.2%）

【問題の概要】四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを記述する

●示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できる。

◇問題番号４の（１）　本校の正答率 32.1%（全国の正答率 56.2%）

【問題の概要】全員分のアンケートが整理されていない学級を見つけ、その根拠となる人数を表１と表２の中から書く



≪御薗小の取り組み【算数】≫

「図形の捉え方」や「根拠を数と言葉で説明する力」の向上に向けて、全学年で各学年の発達段階に合わせて以下の指導を重点的に進めます。図形領域では、実際に立体模型に触れたり展開図を組み立てたりする操作活動やＩＣＴ活用を通し、図形の構造を直感的に捉える力を育みます。また記述力の育成に向けては、日々の授業で答えに至るプロセスを「数・式・言葉」を使ってノートに書く活動を徹底します。「～だから〇〇になる」「表

１の～と表２の～を比較すると…」のように理由や根拠を分かりやすく説明する表現の型を示しながら指導します。ご家庭でも「どうやって計算したの？」「なぜそう思ったの？」など、お子様が自分の考えを言葉で説明する機会を意識していただけると幸いです。

児童質問紙調査　生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果で、本校では次のような特徴がありました。



【 良い傾向があった項目 】

・自分には、よいところがあると思いますか。
・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
・学校に行くのは楽しいと思いますか。
・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。
・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思いますか。

【 課題があった項目 】

・月曜から金曜で１日当たり１時間以上スマホ、パソコン、タブレット、ゲーム機等でＳＮＳや動画視聴をしますか。
・学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、月に１～２回以上あなたと話しますか。
・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
・学校の授業以外に、月曜から金曜で１日あたり１時間以上、勉強をしますか。



≪結果から分析した御薗小の現状と今後の取り組み≫

今回の調査から、本校の児童は「自分が認められている」「学校が楽しい」という実感を持っており、友達との対話や先生との信頼関係の中で伸び伸びと過ごしていることが分かりました。一方で、平日１時間以上の家庭学習や「勉強に関するご家庭での会話」の割合が全国平均を下回っており、家庭と連携した学習習慣の定着が課題となっています。また、困りごとや不安がある時にいつでも大人に相談できるという実感（SOS の出しやすさ）を高めていく必要があります。今後は、日々の課題の工夫や学校での学びの発信

を通して「学校で学んだことをご家庭で話題にする機会」を増やし、学習習慣の定着を図ります。 また、個別面談や定期的なアンケートを通じて児童一人ひとりの悩みに寄り添い、「いつでも相談できる安心感」を学校全体で育んでいきます。 ご家庭におかれましても、お子様の家庭学習への声かけや日頃の小さな変化の共有など、引き続き温かいご協力をお願いいたします。



全国学力・学習状況調査をはじめ、スタディチェック（三重県の学習定着度を把握するテスト）やCRT（標準学力検査）の結果を分析し、日々の授業改善に活かしています。御薗小では、全ての学習の基盤となる「読解力」と「表現力」の向上を重点テーマとして取り組んでいます。保護者の皆様におかれましても、ご理解とご協力をお願いいたします。

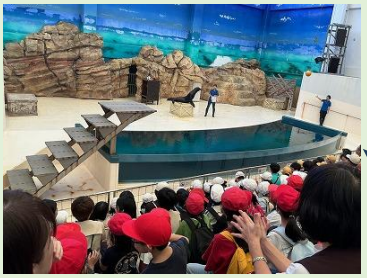


楽しく学んだ社会見学

１０月７日（水）に１～５年生が社会見学に行きました。



一年生　「伊勢シーパラダイス」　ゴマちゃんタッチを体験！



二年生　「鳥羽水族館」　アシカショーでアシカの賢さにびっくり！



三年生　「蒲鉾づくり体験・皇学館大学・防災センター」　作りたての蒲鉾美味しかった！



四年生　「三重県警本部・三重県総合博物館」　大きな展示物にびっくり！



五年生　「鈴鹿サーキット」　多様なモビリティを楽しく体験！

６年生はもうすぐ修学旅行です。

（１１月５日（木）～６日（金））

体調管理と準備をお願いします。